

全ての働く人々に安全・健康を  
～Safe Work , Safe Life～



中災防

製造業における職長の能力向上教育の講師養成  
オンライン講座

# B2 労働安全衛生マネジメント システムの仕組み

中央労働災害防止協会

# 「製造業における職長の能力向上教育」の 「実行カリキュラム」の要件

科 目	範 囲	時 間
(1) 職長として行うべき労働災害防止及び労働者に対する指導又は監督の方法に関すること	A 基本項目(必須) (A1) 職長の役割と職務 (A2) 製造業における労働災害の動向 (A3) 「リスク」の基本的考え方を踏まえた職長として行うべき労働災害防止活動 (A4) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置 (A5) 異常時等における措置 (A6) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップなど) (A7) 関係法令に係る改正の動向	120分以上
	B 専門項目(選択) (B1) 事業場における安全衛生活動 <b>(B2) 労働安全衛生マネジメントシステムの仕組み</b> (B3) 部下に対する指導力の向上(コーチング、確認会話など)	必要な時間
(2) グループ演習	C 以下の項目のうち、1以上について実施すること。 (C1) 職長の職務を行うに当たっての課題 (C2) 事業場における安全衛生活動(危険予知訓練など) (C3) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置 (C4) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップ、確認会話など)	120分以上
合 計		360分以上

## 「B2 労働安全衛生マネジメントシステムの 仕組み」の概要 (①)

### 1 教育のねらい

生産現場において労働安全衛生マネジメントシステムを導入・実施するに  
当たって、**職長は、担当職場の**

① **リスクアセスメント**

② **「安全衛生実行計画」の「作成」及び「実施等」**

③ **「日常的な点検、改善等」**

**に参画**することとなることから、労働安全衛生マネジメントシステムの仕組み  
についての教育を行うことにより、**労働安全衛生マネジメントシステムを円滑  
に推進**することができる職長を育てる。

## 「B2 労働安全衛生マネジメントシステムの 仕組み」の概要（②）

### 2 教育内容

事業者が、労働安全衛生マネジメントシステムを導入・実施する際に、職長が中核的な役割を担うケースが見られる

①「リスクアセスメント」

②「安全衛生実行計画」

③「日常的な点検、改善等」

に重点を置いて、労働安全衛生マネジメントシステムの仕組みについて教育を行う。

※ 就任時の職長教育の教育事項との関係では、能力向上教育独自の教育内容

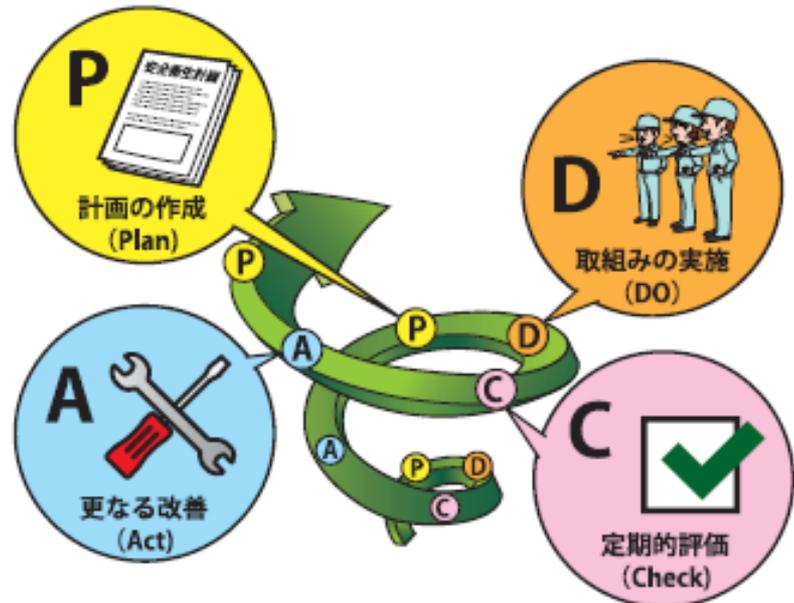
# 労働安全衛生 マネジメントシステム (OSHMS)の概要①

OSHMSは、事業者が行っている様々な安全衛生活動を組織的かつ体系的に管理運用するための仕組みです。

# 労働安全衛生 マネジメントシステム

(略称 **OSHMS**) OSHMSで  
職場の安全衛生活動を組織的&効果的に!

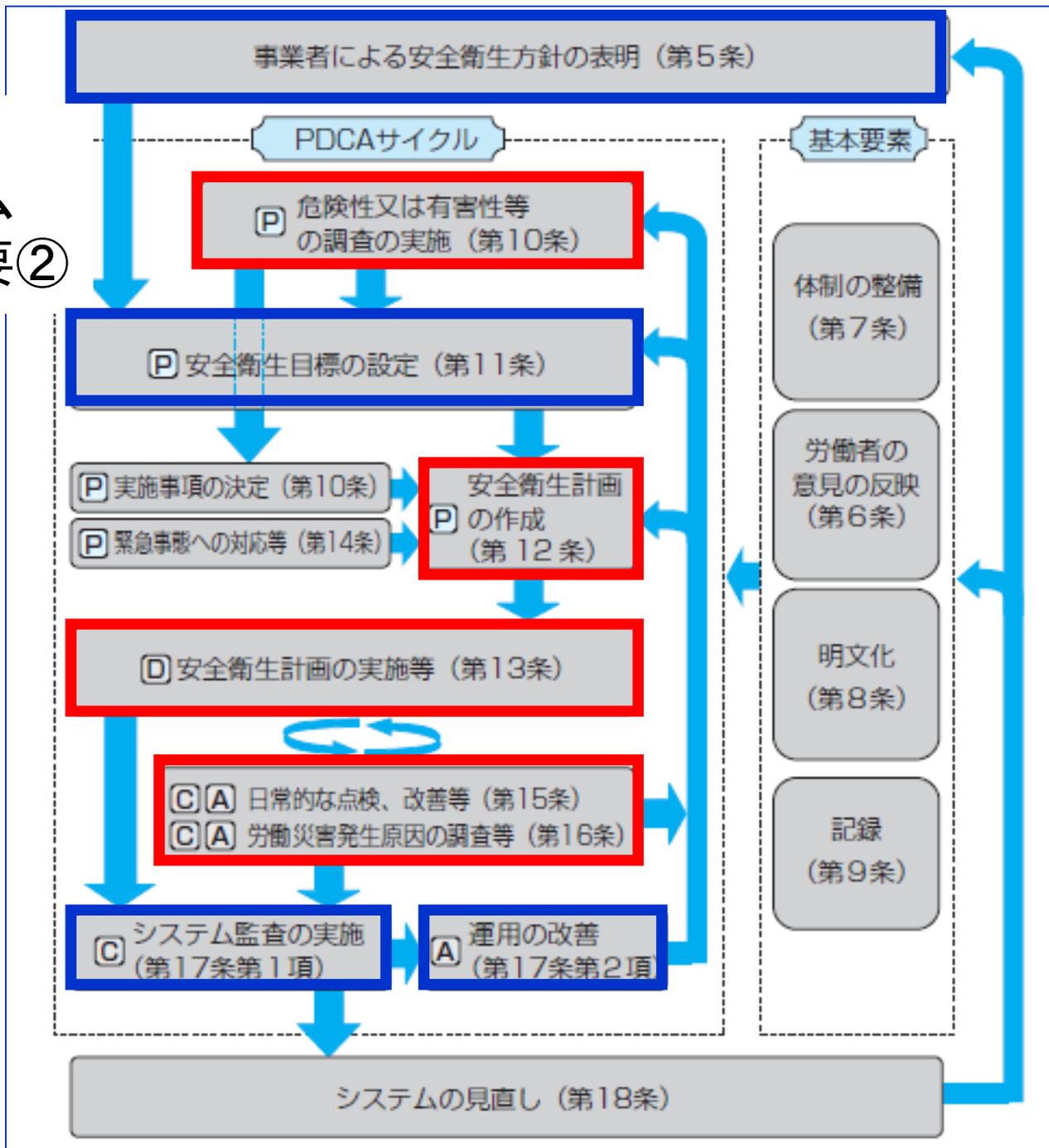
スパイラルアップで安全衛生水準を引き上げよう



## 目次

1. OSHMSの目的
2. OSHMSの特徴
3. OSHMSの効果
4. OSHMS指針改正のポイント
5. OSHMS指針と解説
6. OSHMS指針とJIS Q 45100との関係

# 労働安全衛生 マネジメントシステム (OSHMS) の概要②



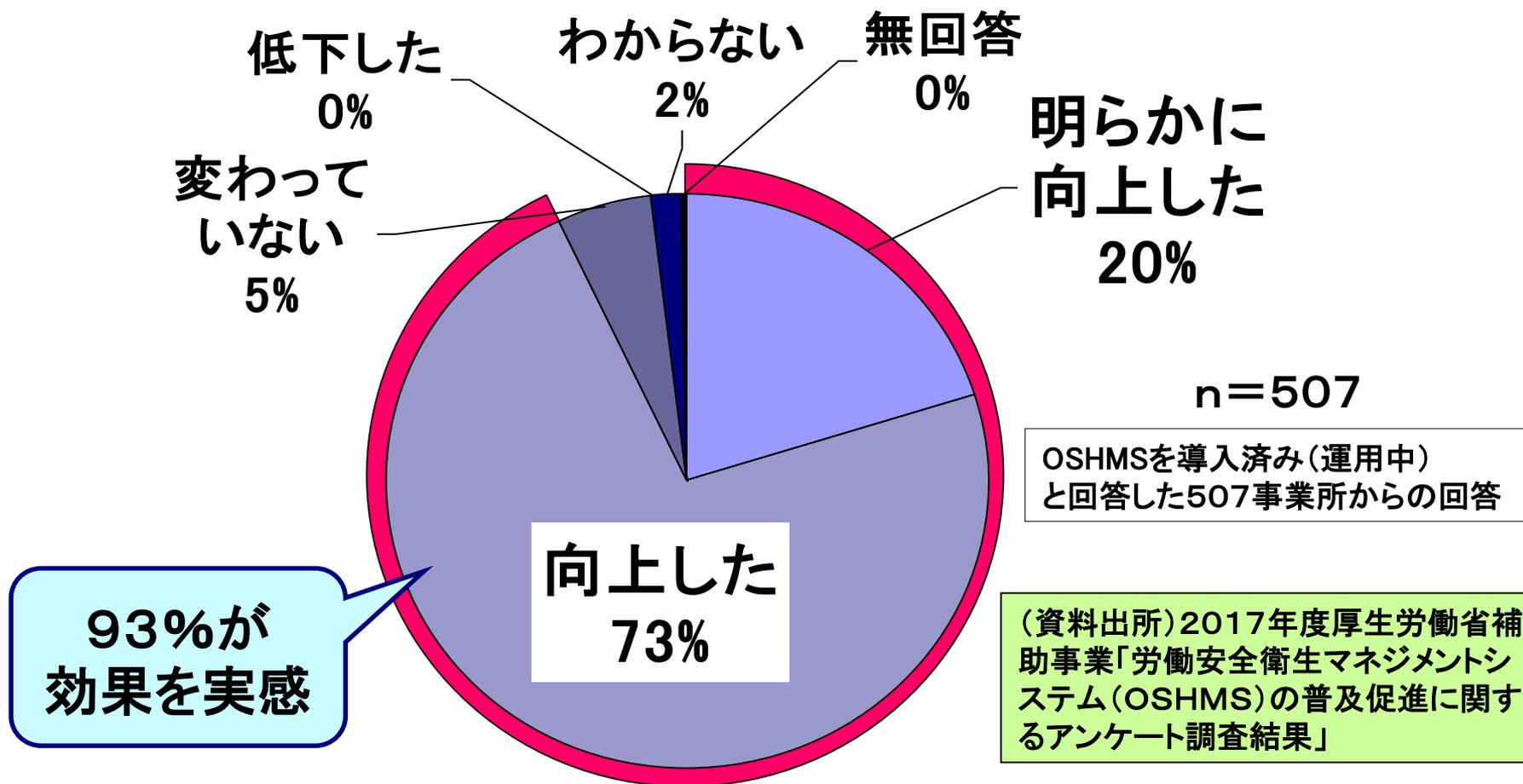
(出典)  
「職長の安全衛生テキスト」  
(中央労働災害防止協会)

# 労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS） の推進に当たっての職長の役割

- 1 OSHMSが効果的な仕組みとして機能するためには、職長が率先垂範して取組み、**職場全体をまとめていく役割**が期待されること。
- 2 職長は、**リスクアセスメント**の手法について理解を深め、その**実施に参画**する必要があること。
- 3 職長は、事業場全体又は部門の安全衛生計画について十分に理解を深め、職場の代表として**安全衛生計画の策定に参画**するとともに、**その実施を推進**する必要があること。

# 労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の 効果（導入後の安全衛生水準の向上）

中災防及び製造業安全対策官民協議会が行ったアンケート調査結果（2017年）によると、OSHMSを導入した後に、安全衛生水準が向上したかとの質問に対し、「明らかに向上した」、「向上した」の割合が93%を占めている。



# 安全衛生活動の効果（日本独自の活動）

## ① 安全衛生計画に盛り込んでいる事項

1. リスクアセスメント	96%
2. 安全衛生パトロール	92%
3. 安全衛生委員会	88%
4. 安全衛生教育	86%
5. ヒヤリ・ハット活動	85%
6. KY活動	83%
7. 4S活動	72%

## ② 各活動の効果があると回答した事業場

1. KY活動	93%
2. 4S活動	92%
3. 作業開始時等ミーティング	91%
4. リスクアセスメント	90%
5. 安全衛生パトロール	89%
6. 安全衛生委員会	89%
7. ヒヤリ・ハット活動	88%

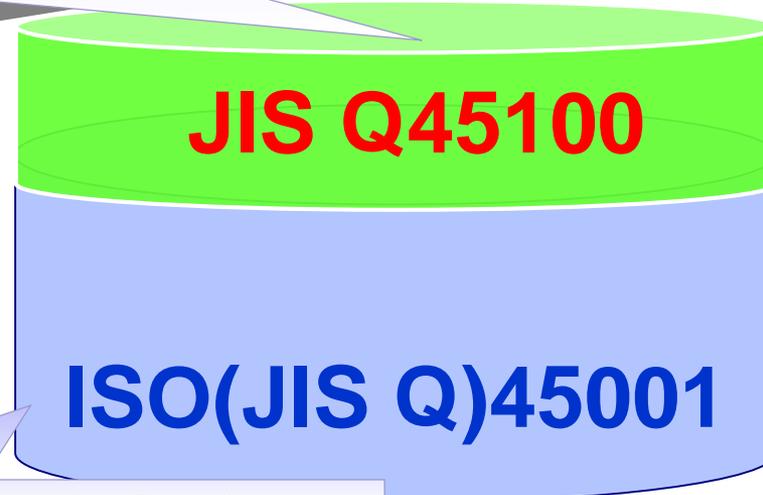
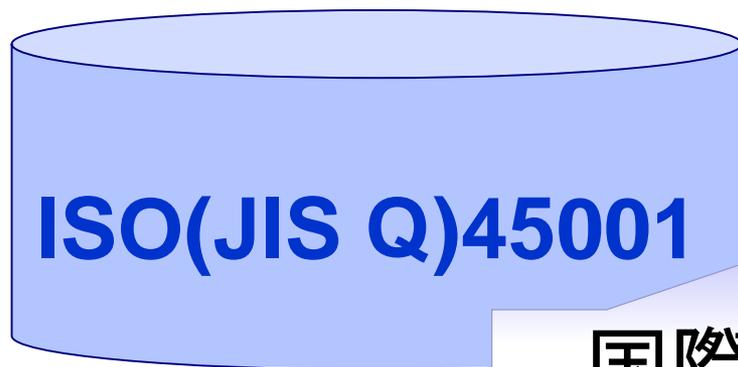
日本独自の安全衛生活動は多くの事業場が取組み、効果が高い

# 日本版労働安全衛生マネジメントシステム

さらなる安全衛生水準の向上

日本独自の安全衛生活動(※)も継続

安全衛生水準



国際性を担保

※ KY活動、ヒヤリハット活動、整理整頓など。

→ 生産現場において、これらの活動の推進の中核的な役割を担っている職長

(注1)ISO45001: OSHMSの国際規格(2018年3月発行)、JISQ45001: OSHMSのJIS規格(2018年9月制定)、JISQ45100: 日本版OSHMSのJIS規格(2018年9月制定)

(注2) JISQ45100は、ISO(JISQ)45001をベースに、KY活動、ヒヤリハット活動、整理整頓などの日本独自の安全衛生活動も盛り込んだJIS規格。

ご視聴ありがとうございました。

引き続き、「B3 部下に対する指導力の向上（コーチング、確認会話など）」の講座をご視聴ください。